

平成 2 5 年度第 3 回

流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

1 開催日時

平成 2 5 年 9 月 2 7 日（金）

1 6 時 0 0 分から 1 7 時 2 5 分

2 開催場所

流山市役所 第 2 庁舎 3 0 5 会議室

3 出席者

黒田委員、稲田委員、鈴木（美）委員、安藤委員、渡部委員、岩井委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、越智委員、大久保委員

出席 1 1 名・欠席 5 名

4 次第

議題

- （１） 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について
- （２） 地域密着型サービスの指定について
- （３） 介護予防ケアマネジメント業務の一部委託の承認について
- （４） その他

5 議事（要旨）

・会長

本日の出席状況について、出席 1 1 名、欠席 5 名で、半数以上の出席により本協議会の成立について報告する。

議題（１）について、事務局から説明を。

・事務局

地域密着型サービス事業所の指定更新について

小規模多機能型居宅介護支援事業所「ひまわりの家」について、指定

更新の申請があり、書類審査、現地調査で指定内容を確認し、8月1日付けで指定更新した報告。

小規模多機能型居宅介護支援事業所「和」について、指定更新の申請があり、本協議会のご意見をいただいたうえで、10月1日付けで指定更新したい。

・会長

委員から質問をお願いします。

・委員

事業所の現地調査には何名で行っているか。また時間はどのくらいかけているか。利用者の話は聞いているか。

・事務局

基準確認票に基づき、提出書類を事前に確認した上で、2名で現地調査に行っている。基準票のチェック自体は30分から1時間程度、その他事業所の日々の活動状況の聞き取りや施設の確認等を行っている。指定に際しては、利用者からの意見の聴取は行うものではない。

・委員

事業所から行政に、要望などはあったか。

・事務局

指定更新の現地調査の場面では特に要望として受けてはいない。なお、指定更新の機会とは別に、事業所の運営推進会議に市職員が出席する中では、利用者の伸び悩みなどの課題を聞き取っている。

・委員

小規模多機能は市内に何か所あるか。システムのやりにくいと聞か
が、きちんとした運営をしてもらえると流山市としても助かると思う。

・事務局

事業所は4か所ある。

・委員

現地調査の実施方法についてお尋ねする。管理者からの聞き取り以外に、利用者の声や食事やトイレなどの生活の場面も見ているか。そこもチェックする方法を工夫したほうがよいと思う。

・事務局

指定更新の書類審査の時には書類の内容のチェックが主だが、定期的

に開催されている運営推進会議に職員が出向いて施設の様子を確認してきている。

時間に限りがあるが、与えられた時間を最大限活用して行っている。利用者の生の声を拾えるように、時間の使い方等については内部で工夫が必要と思っている。

・会長

以上で議題（１）については報告を受けたとして終了する。次に、議題（２）について、事務局から説明を。

・事務局

地域密着型サービスの事業所の指定について。

市内の有料老人ホームの入居者から、柏市のグループホーム「陽だまり 寿の家」の利用希望があった。市内のグループホームにも空きがあるためご案内したが、市内のグループホームでは入居後の生活に関する諸条件でご本人側の希望と折り合わなかったため、やむを得ず当該事業所の利用の希望に至ったため、柏市の同意を得たのち指定申請を受け、現地調査を行った。本日の協議会でご意見を頂いた上で速やかに指定したい。

・委員

費用はどのくらいかかるのか。

・事務局

介護保険利用の１割負担のほか家賃や食費などがかかる。また、医療は協力医療機関以外の受診の場合には家族が受診同行することとなっていると聞き取っている。医療に係る経費は別途かかる。

・委員

看取りには費用がかなりかかる。また家族にも負担がかかると思うが、参考までに聞きたいと思った。

・事務局

看取りの場合に医療保険扱いで訪問診療や訪問看護を入れた場合には、回数にもよるが１割負担で月額数万円かかる。しかし、高額医療費の対象にもなるので、軽減されるところもあると考える。

・委員

市内の施設は高く、柏市の施設は安いということがあるのか。

・ 委員

そういったことはないが、介護報酬以外の部分は、グループホームごとに金額設定は自由で、決まりはない。

・ 委員

看取りの費用は保険で賄われる以上の費用がかかる可能性がある。終末までということは、形はいいが大変なこと。

・ 委員

市外の事業所の指定は、一度指定すると、流山市民がみな利用可能になるのか。また、流山市のグループホームと同じ基準で指定しているか。

・ 事務局

この方の利用に限った指定なので、今後同じように市外の地域密着型サービスの利用を希望する方があればその都度指定ということになる。また、市内グループホームと同じ基準を適用している。

・ 委員

柏のグループホームは今、空きが多いと聞いている。空きがあっても質がいいところは料金が高い。もっと安くて空いているところもある。

しかし市外の地域密着型サービスの利用は、地域密着の本来の目的とずれるので、今回は例外として認めるとして、あまり例外は好ましくないのではないか。

・ 委員

看取りの実績はどのくらい確認しているか。

・ 事務局

看取りの実績の件数は把握していない。

・ 会長

今回のように、高齢者住宅から市外のグループホームへの入居というケースを例外ととらえたいが、今後も同じようなケースが出てくる可能性を市としてどの程度把握しているか。

・ 事務局

現時点で把握することは難しい。

・ 会長

高齢者住宅は今、数多く建っている印象があるが、認知機能の障害などで、施設で生活できないということであれば、次のグループホームと

の契約もトラブルになることもありうることから、このケースを特例と位置づけるのは難しいのではないか。

- ・ 会長

それでは次に議題（３）について、事務局から説明してください。

- ・ 事務局

介護予防ケアマネジメント業務の一部委託の承認について。

ウエルリーフ初石、コミュニケア２４リハビリデイサービス柏居宅介護支援事業所について、流山市の指定基準に合致していることを確認し、一部委託を承認したことを報告する。

墨田区のケアプランサービス早稲田イーライフ向島は、利用者が以前墨田区に居住し、当該事業所のデイサービスを利用していた。利用者は現在、届出上は流山市に転入しているが、居住の実態が墨田区にあり、現地でのサービス利用を希望している。東京都及び墨田区では介護予防ケアマネジメント研修を行っていないため、流山市の承認の要件を満たしていないが、地域包括支援センターの十分な助言指導のもとケアマネジメントを行うことを条件とし、本日ご意見をいただいたうえで承認したい。

- ・ 委員

墨田区は特Ａで加算のある地域だが利用者負担はどうか。

- ・ 事務局

介護予防ケアマネジメントは利用者負担がないので問題ないと考える。

- ・ 委員

墨田区での要支援の方のケアマネジメント実績はあるか。

- ・ 事務局

別添資料のとおり、要支援の方の実績が２１名ある。

- ・ 会長

ウエルリーフ初石は１人ケアマネで経験年数が少ないが大丈夫か。

- ・ 事務局

中部地域包括支援センターが開催する会議への出席など、普段からやり取りが頻繁にあり、介護予防ケアプランについても十分バックアップできると考えている。

- ・ 会長

その他に移ります。として事務局から説明を。

・事務局

地域包括支援センターの第三者評価について中間報告。

第三者評価は、安藤委員、大久保委員、渡部委員、岩井委員、小山委員の5名の委員により、9月25日に東部地域包括支援センター及び南部地域包括支援センターのヒアリングを行った。

1つの包括に2時間ほどかけ、かなり細かくヒアリングを行った。当初現地に出向いてヒアリングを考えていたが、効率的に進めるには、現地で行うことは困難と考え、市役所でヒアリングを行ったものである。

・委員

今回は話を聞くだけとなった。

項目を皆さんで検討したが、○、◎の評価だったが、「鍵のかかった書庫に個人情報をしてしまっているか」など、本来は現地で確認しなければならないことも書面とヒアリングでの評価となった。初めてのことであり、やむを得ない面もあると思うが、評価する側としてはそれだけでは評価しきれない所もあると思った。

特に、地域包括支援センターを広く市民に知ってもらうための働きかけをどのように現場で行っているかを、評価できないと思った。今回はヒアリング実施まで時間が少なく、そうした中で効率的に行いたいということは理解するが、これで第三者評価と言っていいのか、確認に行きたかったという部分がある。今後の事業評価をどうするか、反省を踏まえて形を作っていけばいいと思う。

・委員

◎は100点満点の何点になるのか。「できていない」がないので、ヒアリングだけでは見えない。手法についてはまた検討していくべき。

・委員

評価の手法は検討の余地があるのでは。現地で見るという手法を入れてほしい。

・委員

地域密着型サービス事業所には第三者評価はないのか。

・委員

グループホームは、外部評価を行っている。

・事務局

地域包括支援センターは、毎年1億円の公費が投入されている。市民への説明責任を果たさなければならない。また、評価を行うことでより良いサービスを目指すとともに、利用者がもっと利用しやすい機関になればならないという目標をもって、第三者評価を取り入れた。

・委員

地域密着型サービス事業所には、外部評価を受ける制度がある。包括の評価も、やってみることに意義があると思う。評価を受けることで引き締めて見直すところもある。

包括の評価については、4か所の包括のヒアリングをしてから、評価シートを出したほうがいいのではないかと思う。

・委員

有料老人ホームの第三者評価はどうなっているのか。

・事務局

有料老人ホームには、その運営自体には公費が注がれていない。私企業の自由な活動に対しては法律の範囲内で評価が行われるべきである。

・委員

特定施設入居者生活介護は県の指定になる。苦情があれば県と連携して、場合によっては市から出向くこともある。

・委員

地域包括の評価は、今回やってみて書類だけでは評価やヒアリングがしづらいという結果が出た。来年はその結果を踏まえて現地に行くなどしてはどうか。

・委員

市民は第三者評価が行われることを知らない。それをアピールする努力をして欲しい。

・委員

多くの市民は、介護を受けるためにどこに行ったらいいのかわからないのではないかと。利用者にPRしていかないといけない。利用者が知って自覚することで介護保険制度はよくなると思う。

・事務局

第三者評価の今後のスケジュールについては、評価表は10月1日に

残りの２か所のヒアリングの後で、４包括まとめて、１０月７日頃までに提出いただく。

１０月１８日に委員による摺合せを行い、市から包括へ評価結果を返し、今後の計画の見直しを行い１１月上旬に評価シートの完成版を出す。

評価結果の公表について、ホームページでの公表を考えているが、具体的な方法等については、１１月１４日の本協議会でまたご意見をいただきたい。

- ・会長

その他として事務局から。

- ・事務局

次回は１０月２４日、１１月１４日、いずれも１６時を予定。